

## （旧料亭「蓬嶋楼」 2 階座敷）

### 旧料亭蓬嶋楼：2 階座敷

この階にある豪華な座敷は、高級レストラン（料亭）の中心的部分であり、お客をもてなすための部屋でした。一つの部屋として使用された 2 つの大きな部屋と、プライベートに過ごすための脇部屋で構成されています。この座敷は、精緻な彫刻が施された欄間、赤い壁、透け感のある和紙を使った窓や襖など、上質な素材と目を引く要素にこだわって設計されています。この階の、木目が細かく美しい木材を使った天井は 1 階に比べて高くなっており、上層階でお客をもてなす歓楽街の建物の典型となっています。

### お客をもてなすための空間

蓬嶋楼には、厨房がなく、料理は外部の仕出し屋へ特注しており、それはまさに格調高い施設証と考えられています。お客は座敷の奥の部屋にある大きなテーブルに集まり、食べたり、飲んだり、常連客同士が互いに楽しんだりしました。座敷の入口近くの部屋は、芸者（<sup>げいしや</sup>小浜では京都での慣習と同じく<sup>げいこ</sup>芸妓と呼ばれる）による音楽と舞のパフォーマンスのステージとして使われました。壁沿いの専用のくぼみには三味線や小鼓など、芸妓が使う楽器の例が展示されています。楽器の左側には、掛け軸のある床の間の枠として機能する大きな「満月」の意匠があります。この座敷の反対側の角にある同様の「三日月」の意匠は、生け花を縁取っており、2 つの部屋の間には芸術的なバランスが生み出されています。

### 贅沢な印象を際立たせる芸術作品

座敷には、絵画、書、陶器、木彫など、無数の芸術が展示されています。蓬嶋楼が料亭として営業していた頃から残っているものもあれば、後年追加されたものもあります。奥の部屋にある、飛んでいるスズメの群れを描いた絵は、常連客が楽しむ遊びのお題目でした。この遊びの目的は鳥を数えることでしたが、お酒を数杯飲んだ後ではどんどん難しくなったことでしょう。「三日月」モチーフの近くには、現代書道の発展に貢献した影響力のある芸術家、<sup>いわけいさく</sup>巖谷一六（1834 年～1905 年）による 2 つの書道作品が掛かっています。もう 1 つの傑出した芸術作品は、両方の部屋にまたがる一對の六面屏風です。金箔で覆われた板には、中国古典の作品で知られる儒学者であり詩人である<sup>たつそうろう</sup>龍草廬（1714 年～1792 年）の書があります。

### 歴史的な雰囲気 の 保存

2 階の座敷は、1989 年に料亭が閉店するまでの約 100 年間、商人、船主、裕福な旅行者など、数え切れないほどのお客様に美食と娯楽を提供しました。その特徴的な建築や、豪華な内装、そして展示されている無数の美術品によって、蓬嶋楼が栄えた時代のその見た目と雰囲気 の 両方が今

も残っています。